

## 参考プリント 動物の分類について (教科書 p.126～p.132)

### はじめに

街中ではさまざまな動物を見ることができる。

例えば、公園や駅の近くではハトやスズメ、街を歩いているとネコや散歩中の犬を見かけたりする。

また、家ではハムスターやウサギ、カメなどを飼育している人もいるかもしれない。

これらの動物は姿や形が異なっているが、実は**共通点**があるのだ！

それは何か？

**ズバリ！背骨の有無**である！

背骨をもつ動物を セキツイ動物 という。

(因みに、背骨をもたない動物を無セキツイ動物という。)

ハト、スズメ、犬、ネコ、ハムスター、ウサギ、カメは全部**セキツイ動物**である。

いま、【背骨の有無】という**特徴に着目したことで**

セキツイ動物と無セキツイ動物に分けることができた。

では、他の**特徴に着目すれば更に分けることができるのではないか？** → その通りである。

実は、**セキツイ動物は5つのグループに分類できるのだ！**

その特徴とは何なのか？ 各グループについて詳しく見ていこう。

それでは、**背骨のない無セキツイ動物は？**

無セキツイ動物の種類は、セキツイ動物よりもはるかに多い！

なので、グループがたくさんあって覚えるのが大変、、、

ということで、

**無セキツイ動物**については、**代表的なグループ**を中心に見ていこう！

セキツイ動物は

魚類 両生類 ハチュウ類 鳥類 ホニュウ類

という5つのグループに分類できる！

下記の《 **特徴** 》に着目し、各分類を見ていこう

### 《 子の残し方 》

鳥のようにメスが体外に卵（受精卵）を産む場合 → 卵生（らんせい）

人間のように体内（子宮の中）で育ててから生む場合 → 胎生（たいせい）

の2パターンに分かれる。

魚類・両生類・ハチュウ類・鳥類 → 卵生

ホニュウ類 → 胎生

### 《 卵が育つ場所 》

魚類・両生類 → 水中に卵を産む。子は水中で卵からかえる。

ハチュウ類・鳥類 → 陸上に卵を産む。子は陸上で卵からかえる。

### 《 子の育ち方 》

魚類・両生類・ハチュウ類 → 子が自分で食物をとる。

鳥類 → 親から食物をあたえられる。

ホニュウ類 → 親の出す乳で育てられる。

## 《 呼吸のしかた 》

魚類 → えら呼吸

両生類 → 子：えら呼吸と皮ふ呼吸

おとな：肺呼吸と皮ふ呼吸

ハチュウ類・鳥類・ホニュウ類 → 肺呼吸

## 《 体の表面のようす 》

魚類 → うろこ

両生類 → しめった皮ふ

ハチュウ類 → うろこ

鳥類 → 羽毛

ホニュウ類 → 毛

## 《 体温の保ち方 》

人間の平均的な体温は36度台であり、この温度は季節によって変わったりしない。

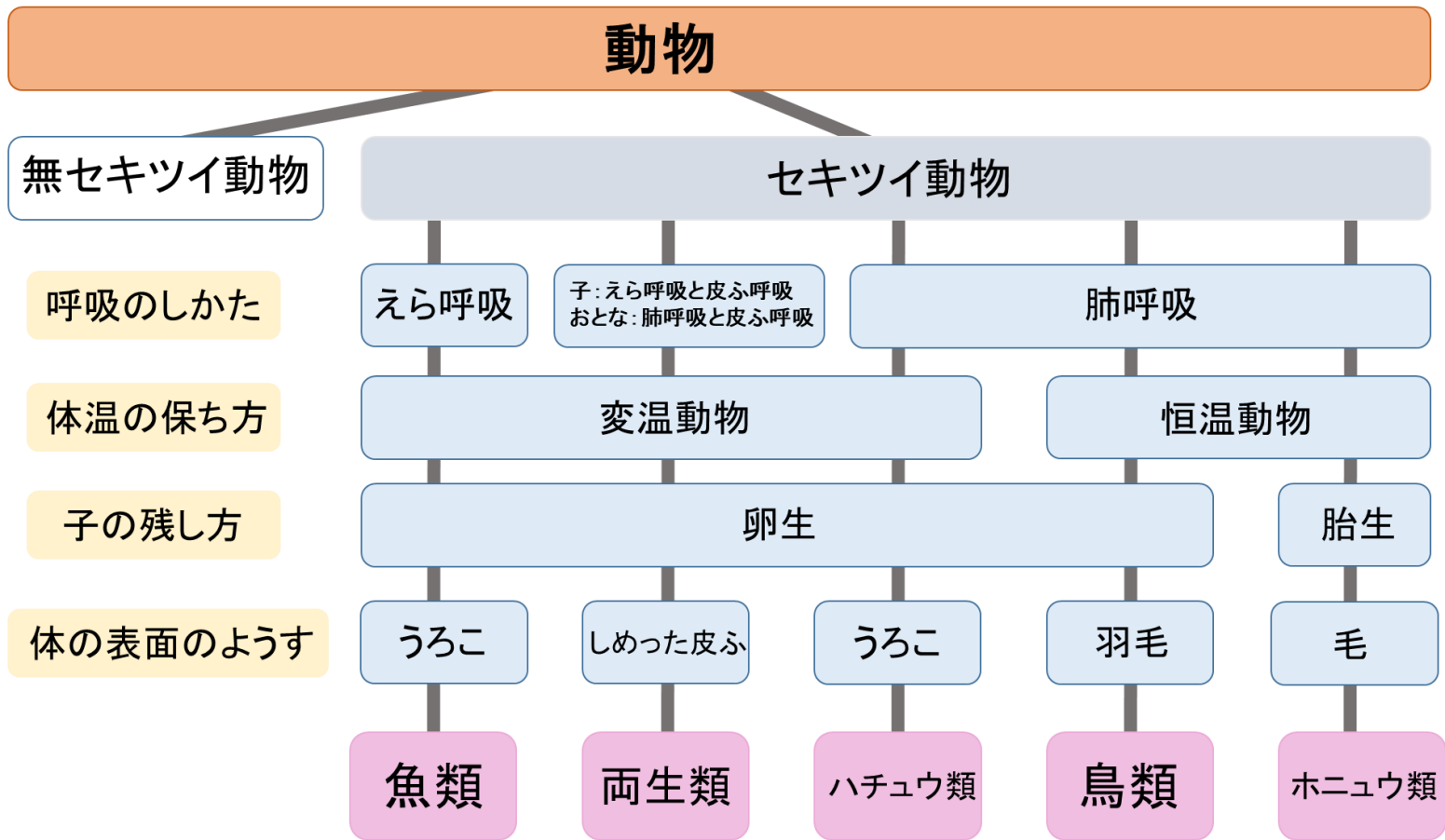
外界の温度が変わっても体温が一定に保たれる動物を **恒温（こうおん）動物**

また、外界の温度によって体温が変わる動物を **変温（へんおん）動物**という。

魚類・両生類・ハチュウ類 → 変温動物

鳥類・ホニュウ類 → 恒温動物

# セキツイ動物のまとめ



無セキツイ動物の代表的グループ

節足動物（せつそくどうぶつ）

軟体動物（なんたいどうぶつ）

それでは詳しく見ていこう！

## 《 節足動物 》

からだが殻でおおわれている。この殻を**外骨格**（がいこっかく）という。

外骨格のおかげで、からだを支えたり保護したりすることができる。

また、節足動物はからだとあしに節（ふし）がある。

節足動物の代表的なグループ

- ・ **甲殻類**（こうかくるい）

多くは水中で生活する。えらや皮ふなどで呼吸する。

- ・ **昆虫類**（こんちゅうるい）

種類により生活場所はさまざまである。

胸部や腹部には気門があり、ここから空気を取りこんで呼吸する。

## 《 軟体動物 》

筋肉でできた膜（外とう膜）があり、これで内臓がある部分を包んでいる。

また、節足動物と違い、軟体動物はからだとあしには節（ふし）がない。

上記以外にも、無セキツイ動物には色んなグループが存在する。

**それでは、課題プリントをやってみよう！**